

⑦『三方良し!』の新たな広報活動

受賞機関 福島県 県北建設事務所

キーワード 建設業振興、今昔フォトギャラリー、貫通石の活用

全建賞審査委員会の評価ポイント

昭和10年頃の建設工事状況と現在の街並みを対比し、エピソードを交えながら建設業の果たしてきた役割やその効果等について紹介したり、トンネル貫通石の地元中学校への展示や配布などを行った建設業振興のための取り組み。戦前の建設工事写真を活用し、これまでの地域の発展に対する建設業の貢献を分かりやすく伝えた点や、貫通石を活用して、幅広い層へのPRが実施された点が評価された。

1. はじめに

福島県の基幹産業である建設業は、社会資本整備に加えて、災害対応、雇用の受け皿として地域を支えるなど重要な役割を担っている。

今も、昔も、これからも、ひたむきに地域を支える建設業の魅力をひとりでも多くの人に理解してもらうとともに、担い手確保につなげることを目的に新たな広報活動に取り組んだ。

2. 事業の概要

1) 昭和10年頃（戦前）の建設工事写真の活用

戦前の写真と同じ位置で写真を撮影し、現在の街並みとの違いを比較するとともに当時を知る方からのひと言を添えて、「今昔フォトギャラリー」として、ホームページでの公開や県立図書館等で写真展を行った。



建設工事写真の説明文

2) トンネル貫通石の活用

建設業界では「安産」、「受験合格」、「大願成就」のお守りとして知られる貫通石を使って、中学校や保健福祉関係などこれまでにない機関と連携し、新たな広報活動の取組を行った。

- ① 地元中学校に貫通石を展示
- ② 地元特産絹製巾着袋に入った貫通石を県民へプレゼント
- ③ 地元特産絹製巾着袋に入った貫通石を妊婦さんへプレゼント



巾着袋に入った貫通石



中学校での展示状況

3. 事業の成果

1) 昭和10年頃（戦前）の建設工事写真の活用

これまで建設業が整備してきた社会資本が地域の発展に大きく貢献し、地域住民の生活を豊かにしてきた歴史的な経過について理解が得られた。また、東日本大震災以降、一貫して福島の復興と地方創生を支えている建設業が、そのはるか以前より営々脈々と果たしてきた役割や大地に歴史を刻んできたその魅力を感じていただくことができ、建設業への理解が促進された。

2) トンネル貫通石

地元の中学生や妊婦さんには、貫通石の御利益を通じて、建設業に興味をもってもらうことができ、道路事業の意義や効果への理解や担い手確保の一助となった。また、県民への貫通石プレゼントでは2日間で約340名への配布により、建設業への理解と魅力を幅広く伝えることができた。さらに、来所された方から、建設業への応援の言葉を直接聞くことができ、職員の志気向上にもつながった。

以上、新たな広報の取組により、県民、受注者、発注者の三者にとって良い効果があった。



事務所での配布状況

4. おわりに

地域社会の基盤となる公共施設をひたむきにつくる建設業は、今も昔も変わらず、やりがいがあり、魅力に満ちあふれた職業であるとともに、誇り高き職業であることを継続して広報していくことが必要と考えます。

最後に、当事務所の広報活動に御理解と御協力をいただいた関係機関の方々に、心から感謝申し上げます。

賛助会員 寿建設(株)